

## 第2 問題作成部会の見解

### 1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 英語以外の外国語については、『筆記』テストを課し、「リスニング」テストは実施しないが、以下のように可能な限り外国語によるコミュニケーション力を評価する。
  - ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を引き続き重視する。
  - ・併せて、高等学校において、「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やり取り]、[発表]」・「書くこと」を統合した言語活動の充実が図られることを踏まえ、情報や自分の考えを適切に表現したり伝え合ったりするために、理解した情報や考えを整理したり、何をどのように取り上げるかなどを判断したりする力を重視する。
  - ・また、コミュニケーションを支える基盤となる知識や技能についても、引き続き評価する。
- 問題は、高等学校学習指導要領「外国語」の目標及び内容等に対応したものとし、CEFR 等を参考に作成する。

また、大学教育を受けるために必要な能力を把握できる問題とするが、高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることも考慮し、多様な入学志願者の学力を適切に識別できるようにする。

### 2 各問題の出題意図と解答結果

ここでは各問題を出題した意図及び解答結果についての問題作成側の見解を述べておく。

第1問 発音及び文法・語彙・表現に関する問題である。全体の難易度及び識別力はほぼ妥当であったと考える。

A 発音変化に関する問題である。問1は終声字「ㄱ」の発音の異同を問う問題であり、問2は濃音化するものを選ぶ問題である。問1は鼻音化の規則が適用されるものと後続する初声が濃音化するものの区別、問2はそれぞれの単語で2音節目の「ㄱ」が濃音化するか、しないかを問うものであった。問1は音韻変化の規則を理解していれば正答を導き出せる問題であり、問2は基本語彙でありつつも注意を要する語彙の発音を問う問題であった。

B 空欄を補う問題である。語彙・文法・表現について正しく理解しているかを問う意図があるが、単にある語彙やある文法を知っているか否かを問うのではなく、当該の語彙や文法形態が具体的な文脈において他の単語等とどのように共起し、いかなる意味を実現するかという点に留意して出題した。全体的に、日本語母語話者にとって重要と思われる学習事項を出題するよう心掛けた。

C 語句の整序問題である。韓国語は日本語と語順が非常によく似ているが、直訳できない表現もあるため、そのような表現を中心に韓国語も日本語も自然な表現を問うことに重きを置いた。また、日本語母語学習者にとって重要と思われる学習事項を出題するよう心掛けた。

第2問 日常生活の一場面を素材にして、文脈に沿って対話を完成させる問題と、対話の内容を理解し状況を把握する問題等を作成した。全体的に使われている単語の難易度は高くないが、状況を正確に把握する能力が要求される。

A ある展示をみた大学生三名が繰り広げる会話であり、その内容を正確に理解できているかを問う問題が中心となっている。

問1 下線部の単語が指す具体的な場所を選択する問題で、会話文を丁寧に最後まで読まな

- ければ解けない問題である。
- 問2 空欄補充問題で、会話文の前後の文脈が把握できていれば正答にたどり着く問題である。
- 問3 空欄補充問題で、会話文の流れが反映されており、なおかつ格言のように用いられる表現を選ぶ問題である。
- 問4 展覧会に関する各登場人物の発話を踏まえ、言及されていないトピックを選択する問題である。会話文を正確に読めていれば正答を導くことができる。
- 問5 会話文の内容と一致する記述を選ぶ問題で、登場人物の発話または行動を正確に把握できれば、正答にたどり着くことができる。
- B 大学職員として働く先輩と後輩が、業務内容について繰り返し広げる会話であり、内容を正しく把握しているかを問う問題である。
- 問1 空欄補充問題で、会話文の冒頭ではあるがその前後の流れを正確に把握できていれば正答を導き出せる問題である。
- 問2 空欄補充問題で、二か所に入る表現の組合せとして適当なものを選ぶ問題である。使用語彙は平易だが、前後の表現を踏まえ適切な文末表現が用いられているものを選べるかどうか問われる。
- 問3 会話文の内容を踏まえ、登場人物の担当業務ではないものを選ぶ問題である。会話文全体の内容を正確に理解していれば正答を導き出せる。
- 問4 二人の登場人物の関係性を問う問題で、会話文の内容や言葉遣いをしっかり把握できていれば解くことができる。
- 問5 会話文の内容と一致する文を選ぶ問題で、過去にも多く出題された形式であった。登場人物の行動や発言を正確に把握できていれば、正答を導ける。
- 第3問 グラフ、案内文など、日常生活で目にし得る素材を読み、その内容の理解を問う問題である。読解力や情報収集力を駆使しながら、多様な資料に対して柔軟に対応できるかといった点が問題を解く上で肝要である。難易度のバランスを含め、適切な出題であった。
- A ある店における飲物の販売数の比率を示したグラフを見て、その内容を正確に把握し、韓国語で書かれた選択肢から適当なものを選ぶ問題である。グラフの情報に照らしつつ選択肢を読んでいけば良く、取り組みやすい問題である。
- B アルバイト募集の案内文に関する問題である。
- 問1 応募を考えている人の希望内容を選択肢で把握し、案内文の募集内容に最も合っているものを選ぶ問題である。特に、「勤務条件及び募集条件」「給与支給に関する案内事項」の項目を適切に参照することで、正答を導くことができる。
- 問2 採用された人がその後にとりうる行動として、案内文の内容に沿うものを選択する問題である。選択肢の韓国語を正確に読みつつ、案内文の「勤務条件」と「出勤時の留意事項」などの関連情報を読み取ることで、正答を導くことができる。
- 問3 案内文の内容と一致する選択肢を選ぶ問題である。全体に対する総合的な理解を要し、細部を正確に理解することで正答を導くことができる。
- C 授業中に配付された案内を資料とした問題である。
- 問1 案内文に記されている課題の主旨を把握し、一致する説明を選ぶ問題である。特に、提示された課題の上段の文章を適切に読み取ることで、正答を導くことができる。
- 問2 案内文で課題として提示されているクロスワードパズルを解き、そこに入る単語の説明として適切なものを選ぶ問題である。全ての空欄を正しく埋めた上で、選択肢の内容を

正確に読み取ることで正答を導くことができる。

問3 案内文のクロスワードパズルに入る文字、**A**、**B**、**C**を順につなげた単語に関する会話文として適切なものを選ぶ問題である。案内文の記述から正しい単語を見付け、書かれた会話文を正確に読み取ることで正答を導くことができる。

第4問 森を手掛かりに人間と自然との関係の在り方を論じた評論を読み、その内容に対する理解度を問う問題である。本文の全体的な内容を踏まえ、漢字問題、空欄補充、四字熟語、各段落を要約した小タイトルの選択、内容一致の問題など、様々な形式の問題を出題した。全体的に適切な出題であったと判断される。

問1 ハングル表記された漢字語の漢字表記を問う問題である。一部難易度の高い問題が含まれているが全体としては特に難易度が高かったとは思われない。

問2 本文の内容を踏まえて、複数の空欄に共通して入る最も適当な語句の組合せを選択する問題である。文脈に合う言葉の選択力が問われる。

問3 指定された段落の内容を適切に要約した四字熟語を選択する問題である。外国語としての韓国語という試験の特性を生かすべく新たに試みた形式である。

問4 本文の内容を正確に把握して、空欄に入れるのに最も適当な語句を選択する問題である。文脈を把握し適切な語句を選択する力が問われる。

問5 本文の内容を正確に把握して、それぞれの段落の内容を表現した小タイトルの組合せとして最も適当なものを選択する問題である。段落の内容を適切に要約できる力が求められる。

問6 下線部の示す内容の具体例として最も適当なものを選択する問題である。内容をきちんと理解しているかを問うもので、丁寧に本文を読めれば難易度は高くない。

問7 本文の内容を踏まえ、空欄に入れるのに最も適当な語句を選択する問題である。文脈を正確に捉える力が問われている。

問8 本文中の下線部の説明として最も適当なものを選択する問題である。本文の内容を適切に把握できれば特に難易度は高くない。

問9 提示された文を本文中に挿入する際、最も適当な場所を選択する問題である。本文の全体的な文脈を適切に理解することが求められる。

問10 本文全体の内容と一致するものを選択する問題であり、本文の内容を正確に理解することが求められる。④と⑤の二つを選択する必要があるが、特に難易度が高かったとは思われない。

### 3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

今回の問題も昨年度と同様、コミュニケーションの土台となる発音・文法についての基礎的理解を問う問題、実生活で接しうるような日常的な対話文を読んで内容を理解するとともに、対話の中での適切な表現を選択する問題、資料等を通じた情報を読み取る問題、長文の中に漢字問題を入れ込んだ問題、文脈の適切な理解を問う問題など、これまでの試みを定着させつつ、思考力や提示された情報の適切な理解を問うとともに、コミュニケーション能力を重視して、多様な問題の作成を行うことを念頭に出題を行った。

第1問に関しては発音や文法、語法の知識のみを問う問題であるという批判がこれまでなされてきた。しかし、本部会では、コミュニケーション能力を問う前提として正確な発音・語彙・文法の知識を問うことは学習者にとって必要なことであり、中等教育と高等教育を繋げる共通テストの意義という観点からも妥当性があるという見解を維持している。ただし、高等学校の教育現場でのレベルに対応した問題を作成するための努力は続けていく必要は認識しており、出題方法の検討はこ

れからも引き続き行いたい。

会話文の出題については、今回、友人同士の対話、職場での対話といった素材を扱うことで日常生活に密着したものとなっている。対話の内容を適切に把握しているかを問う問題を出題するにとどまらず、語彙の細やかなニュアンスを問う問題も組み込んでいる。あわせて、文化（美術）的な内容を会話文の中に入れ込んだ（第2問A）のも今回の試験における一つの試みであった。抽象的な内容を読み取る力も必要であり、同時に友人・同僚間の行動や関係を適切に把握する必要がある問題も出している。難易度そのものは高くはない。人間関係を軸に、単に情報交換にとどまらないコミュニケーションの在り様をくみ取る問題となったものと思われる。

実用文の出題については、方式について数年間の試行錯誤を続けているところで、一定の形式ができあがってきたように思われる。表から情報を読み取る問題や、生活に密着した多様な内容を扱う、実践的な文章を読むという点は高く評価されてきており、問題の質についても年々向上してきていると考える。問題中の情報量が多いとの指摘もあるが、本試験の正答率等を見る限り、受験者は十分に対応しており、問題の量は基本的には適切であると判断している。

長文問題は、今回も、読解力や思考力を問う論説文のみ1題を出題する体裁を維持した。漢字語や専門用語が多めで難易度がやや高い文章ではある。長文の分量と問題数については、引き続き検討を続けるべき部分ではあるが、受験者たちには今回のレベルの論説文を読んで意味を理解することに大きな負担はなさそうであった。昨年度に続き、今回の問題も、高等学校入学以降から学習を始めた生徒にも解答可能な問題であったと思われる。今後もより一層良質な問題の作成を目指していきたい。

なお、「高等学校教科担当教員の意見・評価」で、「学習指導要領における『韓国語』の学習範囲から逸脱した出題がないよう」にとの依頼があった。

学習指導要領では「生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法などの知識を五つの領域（中略）における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること」が配慮されるべきとしている。

韓国語でも音声・語彙・表現・文法はそれぞれ実際のコミュニケーションで意識すべき内容を扱っており、学習指導要領の取り扱いから外れたものではない。「日本語と英語の語彙や表現、論理の展開などの違いや共通点に気づかせ（後略）」という学習指導要領の方向も意識している。一方、学習指導要領では「過度に文法的な正しさのみを強調したり、用語や用法の区別などの指導が中心となったりしないよう配慮し、（中略）実際のコミュニケーションにおいて活用できるように、効果的な指導」が求められているが、音韻変化は韓国語においては基礎的な学習事項であり、学習の比較的初期段階で学ぶ事項でもある。語尾の多様な用いられ方も実際のコミュニケーションを念頭に置いたものとなっている。

会話文、実用的な情報、長文の論説文についても、「言語活動で扱う題材は、生徒の興味・関心に合ったものとし、国語や地理歴史、理科など、他の教科等で学習した内容と関連付けるなどして、英語を用いて課題解決を図る力を育成する工夫をすること」が学習指導要領で要請されており、扱っている素材はその方針から外れてはいない。

全体として、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す」方向性には沿っているものと、問題作成部会では判断する。

#### 4 まとめ

「共通テスト」開始にあたって実用問題を取り入れる新たな取り組みがなされて今年度で6年目となった。実用文については年々完成度も高まり、一定程度の形の定着はなされてきたと思われる。これまで課題となってきた発音問題の出題方法については、引き続き検討を続ける必要がある。長文問題は「共通テスト」になって以降、主に論説文から出題されてきたが、エッセイや文学作品、新聞記事など様々なジャンルの文章を出題できるよう検討していく必要があると同時に、分量や問題数についても引き続き検討が必要である。

全体の分量には常に留意する必要があるが、受験者が分量的には十分にこなせていることが本試験の結果からうかがうことができる。難易度については、今後もおおむね現在の水準を維持していく予定である。